□には、リンクがあります。※は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名　グループホーム　たんぽぽ　※

日付　平成18年3月31日

評価機関名　特定非営利活動法人 ライフサポート

評価調査員　在宅介護経験14年

評価調査員　老人保健施設相談員、介護支援専門員、厚生労働省認知症介護指導者

自主評価結果を見る　（まだリンク先はありません）

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※

外部評価の結果

講評

全体を通して（特に良いと思われる点など）

昼下がり、学校から帰ってきた学童達が勢揃いして、庭先からお年寄り達に大きな声で「こんにちは、今日も元気で・・・・」と挨拶する。ここでは、お年寄りに世代の違う子供達と日頃から接する事ができる楽しみがある。この法人は、広い立地を活かして、グループホームとヘルパー派遣事業、そして学童保育事業を併設して取り組んでいる点が特筆されよう。

グループホーム開設にあたって、県外のこうした学童保育を併設している施設を事業主と管理者が見学して取り組んだという。ホームの設計には半年以上かけて準備をしたという、このホームにかける意欲が伝わってきた。

玄関を施錠せず、またリビングからも日中には自由に出入り出来る建物構造と運用は、利用者にとって屋外空間を思う存分に使える開放感が嬉しいに違いない。晴れていれば、日課となっている周りの田園周辺の散歩に、この日も多くの利用者が参加していた。

併設の学童保育のスペースを賃料のみで開放し、地域の子育て支援にも大きく貢献していることも素晴らしい。

また、他のグループホームと連携し、研修にも力を入れて、単独型の弱点を補おうとしている姿勢は注目される。こうした努力を進め、井笠地域が県下でも有数の高齢者介護や福祉の先駆的エリアに一層高く前進する事に寄与してもらいたいものです。

特に改善の余地があると思われる点　　次のような提案をした

余裕ある敷地や、ホーム自体のゆったりした空間活用が新しい取り組みの可能性を感じさせる。

①ホームの構造が空間が広いのは良いのですが、少し殺風景になりやすいデメリットがあるので、観葉植物等の植栽物を増やしたり、利用者に潤い感を与える絵画や写真等の装飾物を工夫すればいいのではと感じた。

②学童との交流は、感染症対策や長い交流時間の疲れの問題など配慮を要する面も少なくないが、比類の少ない取り組みの成果を是非とも活かして、及び腰にならず、先進的な取り組みのモデルを作り上げて欲しいと思う。

③食事に関して、やや味付けやバランスに薄さを感じた。食に関する意義を職員全員で議論してみてはいかがでしょう。

④意欲のある単独型ホームと連携して、恒常的な職員相互の研修システムを創造して欲しい。

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	

記述項目　グループホームとしてめざしているものは何か

開設前から当地の行政や地域住民、小学校関係者、そして学童保育の保護者などと協議を重ね、地域の中で子供達と共生できるグループホームを目指している。「この点に関しては、他のグループホームに負けない」という確固としたものとして実践しようとしている。

また、事業者は「女性が働きやすい場を作る」ことを意識して運営に当たっている。既存の大規模施設で見られる「お世話をしてあげている」といった一方通行的なケアではなく、「一緒に生活している」という一体感があるケアを目指そうと努めているようだ。

目標は、学童保育を併設している特性を最大限に活かした、子供と高齢者の共存関係をより高めていきたいとする理想を持っている。

Ⅱ生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	

記述項目　入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

活力ある生活を維持するため、出来るだけ自由な成果が出来るよう施錠を行なわず、閉じこもらないよう積極的に外へ出掛けるよう努めている。田んぼのあぜ道風な道路を活かしての散歩に加えて、買物等の行動や近隣の喫茶店や食べ物屋への出掛ける機会に取り組んでいる。

身体機能の維持と共に、言語コミュニケーション以外の表情や身振りにも注意を払って、利用者個々の状況把握に留意しようとしている。それらを通して、利用者と職員が家族のような関係作りを目指そうとしている。

Ⅲケアサービス

番号		できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

Ⅲ ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	

記述項目　一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

家族からの情報や家族から本人の健康状態や性格や好みをよく把握して、「出来ること」「出来ないこと」を分析し、利用者の個性を活かす努力をしている。コーヒーが飲みたい人は喫茶店に行ったり、散歩が好きな人には散歩に出かけたり、ホームに閉じこもらない生活を支援している。

ここでの生活が、利用者の新しい意欲を引き出し活気のあるものとなるよう努めていることが覗える。また、利用者の部屋に入る時にはノックをきちんとするなど、個々の人権を尊重している。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	

記述項目　サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

まず1ユニットから出発したのは自分達の目指すケアの実践を確実にするため、背伸びせずにその実現を夢に描いている。その一つが、ゆったりと広い空間とホームに閉じこもらない生活の保証であったようだ。

事実、様々な戸外活動や、子供達との交流などを通じて、利用者達は老いた中での新しい充実したライフステージを生き生きと過ごしているようだ。

また、事業者も職員も近隣のグループホームと絶えず交流し研修を行って、独りよがりに陥らないケアを目指している点が素晴らしい。

地域の中で学童保育の指導員達とも連携し、社会の中でグループホームの在り方を模索している。